

1. 所 長

研究の概況

細川 昌則

自閉症は、知的障害の有無や言語発達の状態などにより、その徴候は様々であり、一つの連続した障害、「自閉症スペクトラム」という概念でとらえられている。自閉症の発症メカニズムはほとんど明らかではないが、遺伝的要因が強く、しかも、多種多様な病因遺伝子が関わる。当研究室は、このように複雑な障害である自閉症の診断と治療に貢献する研究に取り組んでいる。

平成 21 年度は、前年度に引き続き自閉症に関する 2 つの研究を進めた。(1) 自閉症の非観血的・客観的診断に応用するために、脳波によるプレパルスインヒビション (PPI) の測定を試みた。(2) これまでコロニー中央病院、養楽荘の協力を得て、150 人を超える自閉症児・者および定型発達児・者ボランティアの採血を行い、CADPS2 遺伝子の発現型と自閉症との関連性について検討を進めた。また、自閉徴候に関わるアンケート調査を同時に行い、身体的特徴、徴候・臨床経過、遺伝子発現などを因子として、「自閉症スペクトラム」のクラスタリングの可能性を検討している。